



よく寝る牛はよく仕事をする…！？



お久しぶりです、斎藤です。約1ヶ月の実家療養を終え、別海町に帰ってきました。根室の8月はこんなにも寒いのですね…。

さてこの一ヶ月、地元富山にて初めての手術、入院を経験してきました。術後3日は歩くことすらできず、ベッドで寝たきりの生活をしており、つくづく四胃変異手術後もすぐ立ち上がり仕事をする（乳を出す）牛はすごいなあ、と感心しておりました。

そんな牛ですが、実はきわめて強い休息意欲をもっていることをご存知でしょうか。ある研究では、牛が飼養密度 130% の過密状態におかれた場合、100% の状態と比較して、搾乳後は食べることよりもフリーストールを使用することを好み、採食よりも横臥を待つことに時間を費やした、という結果がでました（Batchelder, 2000）。牛はどのステージにおいても採食や社会的相互作用よりも横臥、休息の優先順位が高く、休息時間が何らかの原因で失われた場合には採食の時間を削る（Munksgaardら, 2005）といわれています。



なんだ、意外と牛も休みたがりなんじゃん、私と一緒に。一安心です。

否。牛は私とはやはり一味も二味も違います。休息時間が1時間増えるたび、1日の乳量が約1~2kg 増えると示されています（Grant, 2004）。休息することによって、乳房への血流量が増加すること、反芻の増加、蹄へのストレス減少、乾物摂取量の増加等が期待され、これらが乳量 UP の引き金となっています。

この休息時間をふまえ、牛の一日の行動を示した「カウタイムバジェット」という概念があります。バジェットとは予算、経費という意味で、カウタイムバジェットとは「一日の牛

の行動を予算化し、どのように配分しているか」を示すもので、乳牛の行動の時間配分を適正化することで生産性を向上させようとする考え方です。

採食	3~5時間 (9~14食/日)
横臥	12~14時間
反芻	7~10時間
飲水	30分
社会的相互行動	2~3時間
ペッタ外 (搾乳等)	2~3時間

上記の表はフリーストール環境のホルスタインに関する Grant と Albright (2000) の研究を出典とした乳牛の一日のタイムバジェットと示しています。この表を基にして牛が一日に必要な時間を計算すると、採食 5 時間 + 横臥 12~14 時間（反芻 6 時間含む）+ 起立中の反芻 4 時間 + 飲水 30 分として、1 日 20~21 時間近くなります。この必要な時間を考えると、人によるマネジメント業務（搾乳や授精、削蹄、除糞等）が簡単に牛のタイムバジェットを混乱させうることがわかります。

牛の 1 日の生活スタイルを観察し、人によるマネジメントの時間帯を極力短くするよう再度見直し、必要に応じて餌場や水場、ベッドへのアクセスを工夫してみてはいかがでしょうか。

ちなみに、術後すぐのサイトウタイムバジェットは以下の通りです。採食も排泄も全てベ

採食	3時間 (3食/日)
横臥	24時間
反芻 (消化)	7~10時間
飲水 (点滴)	4~5時間
社会的相互行動	2~3時間
ベッド外	0時間

ッドの上、横臥しながらのことでした。この横臥時間、生産性は向上するしかないですね…！？まだまだ半人前の新人ですが、これから猛スピードで頑張ります！ 宜しくお願い致します！

斎藤 歩